

ICCAE



名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成17年9月30日発行 第7巻 第1号(年2回発行;通巻11号)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~iccae/index.html>

e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

日米大学間 対話セミナー開催のお知らせ

— 参加歓迎 —

2005年10月31日(月)～11月2日(水)
於：名古屋大学野依記念学術交流館

ICCAEは、開発途上国の農学分野の国際協力に携わる日米大学間対話セミナーを、本年10月31日(月)から11月2日(水)名古屋大学野依記念学術交流館において開催します。本セミナーでは途上国、特にアジアとアフリカにおいて生活の最も基本である農業と農学の開発協力分野で、両国の協力活動が相乗効果を発揮できるよう、連携の可能性と強化について話し合います。

両国の高等教育・研究機関、援助機関には、途上国の農業開発や農学教育を通しての人づくり支援に関して多くの経験と教訓が蓄積されていますが、これまで両国間において、これらの経験と教訓の組織的な交流は行なわれて来ませんでした。本セミナーでは両国それぞれ10大学と米国のUSAID、ALO、日本のJICA、JBICなどの代表が、経験を交換し、討議を通して連携の可能性を探求します。皆様のご参加を歓迎します。詳しくは本センターのホームページをご覧ください。

ミシガン州立大学訪問

竹谷センター長と松本教授は、2005年3月「発展途上国の人作り戦略構築」の研究分野で優れた業績をあげているミシガン州立大学を訪問しました。

国際農業研究所のクレイ所長は、「ルワンダ農業強化連帯連携プロジェクト」(PEARL)に取り組み、内戦で疲弊したルワンダで、2001年から農家を組織して、品質管理とマーケティングで高品質のコーヒー輸出に成功し、国の立て直しに貢献したことを話しました。

農業経済のウェーバー教授とボートン助教授は途上国の人づくりのためには関係国において様々な方法で質の良い研修対象者を探し出すことが重要であることを強調しました。そのための資金は、USAIDや連邦政府、ロックフェラー財団など多様なところから確保するよう心がけていました。教育・研究はミシガン州立大学で1年、もう1年は留学生の出身国で行なう方式をとっています。彼らはまた、大変な労力をかけアフリカに関する政策や研究をデータベース化して、容易に検索出来るようしていました。

圧巻は国際開発課のサポート・システムです。世界中の外部資金情報をリスト化し、大画面PCで簡単に検索できるよう編集していました。日本の機関の資金情報も検索しています。所属職員は仕事に精通しており、情報を見てある教員の研究範囲内とみると、応募書類の大部分を作成し、応募課題の該当教員は専門部分だけ、せいぜいレターサイズ2枚を担当するのみとのことでした。その代わりオーバーヘッドは大きく、士気も極めて高く、仕事に誇りを持っていました。職員が教員の研究内容を把握して初めて出来るシステムであり、我が国の大学でここまで出来るようになるのには何年かかるかと考えると気が遠くなる思いでした。(平成16年度総長裁量経費)



ミシガン州立大学農学部

AICADとアクションプランを策定

ICCAEはAICAD（アフリカ人づくり拠点）と2002年3月、学術交流協定を結び、これまで長・短期の専門家（派遣）推薦や、客員研究員の招聘、情報交換など交流活動を推進してきました。今回、これらの効果を相互評価し、交流のレベルアップを図るため、竹谷センター長が2005年3月、AICADを訪問し、A. B. Gidamis 所長を始めスタッフと意見交換を行い、次のような理解を共有しました。

①貧困削減を目標とするAICADにとって、貧困・その原因・解決のために研究プロジェクトが必須である。

②大学研究者は、AICADへの研究プロジェクト申請に際し、貧困削減との関連を明確にし、研究成果もその視点から評価される。その意味で、大学研究者は研究方法を切り替える必要がある。

③AICADは、研究開発成果を普及するため、農業省と協力し、普及スタッフや農場経営リーダー等の研修を行い、その効果も評価している。

④AICADは、実施している事業相互間の相乗効果を期待している。

⑤アジア開発の経験は、Asia-Africa 南々協力プロジェクトを通して、アフリカの人々が自ら考える方法を学び取る上で役立つ。

さらに、少なくとも2ヶ国が近くAICADに加わる見通しも提示されました。これらを踏まえ、以下のアクションプランを策定、覚書を交換しました。

①AICAD対象地域の研究プロジェクトやニーズに関心を持つアフリカと日本の研究者に関する情報交換を行う。

②ICCAE は、AICADと密接に共同研究している研究者を客員教授・研究員として招聘し、研究を推進する。

③ICCAEは、AICADと共同で、ネリカ(NERICA)米普及のための社会経済条件について調査し、併せてネリカ米生産の小農への影響について研究する。

このアクションプランを持って、竹谷はAICADの担当省であるケニア文部省のThuku高等教育局次長を訪れ、貧困削減に有効な対策解明などAICADに大学を参画させる目的を伺うとともに、ICCAEの対応について説明しました。またJICAケニア事務所、同東南部アフリカ地域支援事務所を訪れ、JICA事業の中での位置づけについて意見交換し、連携協力を確認しました。



AICAD執行部とのアクションプランの協議



GIS研修生、インストラクターと北川教授

JICA-GIS研修コース、第2フェーズ5年更新

ICCAEが、2000年から毎年、国際協力機構（JICA）中部国際センターと協力して実施してきた集団研修コース「GIS（地理情報システム）による農業資源・農業生産物の管理」が、2005年よりさらに5年間実施することが決まりました。本研修は、開発途上国の研究者・技術者がインターネットから無料でダウンロードし、自由に使える利点のあるGISフリーソフト「GRASS」の利用方法を研修させることが特徴で、帰国後に活用・普及しやすいと研修生に大変好評でした。これまでの5年間で、21カ国28名が研修を終え、今後もさらに広めていきます。

着任挨拶

協力ネットワーク開発研究領域教授 浅沼修一

本年4月1日付けで着任しました。前任は独立行政法人国際農林水産業研究センター（JIRCAS）で、約7年間、主に国際研究協力プロジェクトの立案・企画・実施運営・評価を担当し、1年半前から石垣市にある沖縄支所で、支所長として、亜熱帯気候条件下における農業研究の管理・運営を行ってきました。

西アフリカ諸国及び東南アジア諸国における自らの農業研究やJICA短期専門家としての経験並びにJIRCASでの研究管理等の経験から、開発途上諸国における農業発展はその国の住民が自ら考え、自ら努力することから始まることを身にしみて感じました。そこで、当センターにおいては、セン

ターがこれまで実施してきたJICAによる集団GIS研修の企画調整及び人材のデータベースの管理運営を引き継ぎながら、アフリカや東南アジア等をターゲットとした途上国の人材育成のための国際教育協力、すなわち研究・教育を通じた人づくりに取り組みたいと考えています。よろしくお願い致します。



略歴 1950年生まれ。1977年名古屋大学大学院農学研究科博士課程満了（1979年農学博士）。1979年ナイジェリアにある国際熱帯農業研究所(IITA)ポスドクトラルフェロー、1983年九州東海大学農学部講師、1986年農林水産省北海道農業試験場、1993年九州農業試験場。この間一貫して圃場における根粒菌利用の研究に従事。1998年6月JIRCAS、2003年JIRCAS沖縄支所長。2005年4月から農学国際教育協力研究センター教授。

退任挨拶

北川勝弘

私は、1999年4月に新設された農学国際教育協力研究センターへ最初の専任教官として農学部から移籍して以来、この6年間、開発途上国と農学分野での国際教育協力一人づくり協力を進めることを目標に、協力ネットワーク開発研究領域を担当して活動してきましたが、3月末をもって名古屋大学を定年退職しました。

農国センターで過ごした“我が最終ラウンド”を振り返ってみますと、新設センターの立ち上げ時期にスタッフ一同が苦勞しながら取り組んだ課題の多くが、今ではそれぞれある程度結実しつつあることを実感でき、努力した甲斐があったと嬉しく思います。私が担当した主な課題は、①国際教育協力に関心を持つ全国の教員・研究者らを対象とする人材デ

ータベース開発、②JICA - ナミビア大学農学部強化支援計画、③JICA-AICADプロジェクト国内委員会（農学）、④JICA - GIS研修コース、の4つでしたが、いずれも大変やり甲斐のある仕事でした。これらの課題の遂行に際し、センタースタッフをはじめ多くの関係者の方々からたくさんのご支援・ご協力をいただきました。ここにあらためて、これまでお世話になった多くの方々に厚く御礼を申し上げます。

末筆ながら、農国センターが今後、ナショナルセンター、インターナショナルセンターとしての機能を一層高められ、開発途上国とわが国の研究者・教育研究機関の間を有機的に結ぶ橋渡しの拠点としてさらに発展されますよう、心より祈念いたします。



離任挨拶

門平睦代

月日が発つのは早いもので本センターが創設されて6年がたち、私自身の勤務期間も5年と10ヶ月になりました。赴任早々は、パンフレットの作成、人材データベース構築のためのアンケート調査などに取り組みながら、最初の海外業務がネパールでのJICA農業プロジェクト外部評価でした。その後、パラグアイ中等農業教育カリキュラムの見直しやナミビア大学

農学部強化支援計画になどに携わり、農業教育を通じた人づくり協力を研究・実践してきました。しかし3月末にはICCAEを卒業し4月1日より北海道にある帯広畜産大学に勤務しています。名古屋大学での経験を活かし帯広でも「人づくり」のために尽力しますので、これからもよろしく願いいたします。



客員教授紹介

開発途上国の農業開発とICCAE知見活用

国際協力銀行(JBIC) 澤井克紀
客員教授第1種(任期:2005年4月1日~2006年3月31日)

開発途上地域における貧困人口の約75%は農村部に集中しており、貧困削減を主要命題として位置づけている国際協力で、農業分野は依然として重要な開発課題になっています。しかも、従来の灌漑施設等を整備し、農業投入財を確保し、農村の余剰労働力を都市部に頼るというアプローチを繰り返すだけでは、持続可能な農業の確立にも限界があることも明らかになってきました。農村部の貧困削減、環境対策、農産物加工業の育成、そ

のためのステークホルダーの事業参加といった数次元の異なる課題を包括的に扱うためには、農学に裏付けられた賢い知恵が求められているのだと思います。その意味で、ICCAEが開発途上国で貢献できることも、戦略的かつ挑戦的なものでしょうし、今回の研究を通じて、その可能性を実践してみたいと思っています。



略歴 1958年生まれ。1981年東京工業大学工学部卒業。1982年アジア工科大学院人間居住開発研究科修士課程修了(工学修士)。1983年海外経済協力基金(現国際協力銀行)採用。以降カイロ、ナイロビ駐在の他、プロジェクト開発、調査、評価を担当。2005年7月より国際協力銀行プロジェクト開発部次長。

林学・木材科学分野の教育専門家育成に資する上級版プログラムの開発

(ブラジル・パラナ連邦大学上級教授)

ロベルト・ツヨシ・ホソカワ
客員研究員(任期:2005年2月1日~3月31日)

私は2005年2月1日から3月末日までの2ヶ月間、ICCAEの客員研究員として滞在し、標記の研究テーマに取り組みました。この研究テーマは、ブラジルの森林の持つ社会経済的機能、名古屋大学とパラナ連邦大学の持つ教育面での活力、日本とブラジルの科学技術水準、に大きく依存します。テーマの対象とした地域タイプは、アマゾン熱帯降雨林、サバンナ、乾燥ステップです。ブラジルの森林資源を大量に利用して生み出された、さまざまな、有益あるいは有害な結果に対処するには、環境に適合した技術と高度な科学的能力を身につ

けた人材を必要とします。研究の結果、科学的、社会的、政治的な力量をもったリーダーたちを育成していくべきとの結論を得て、ブラジル側で育成にあたることのできる上級研究者のリストを作成しました。



本研究の機会を与えてくださったICCAEに、厚く御礼申しあげます。とりわけ、北川教授には、開発途上国の森林資源問題に関する討議などで私の良きパートナー役を務めていただきました。心から感謝いたします。

略歴 1945年ブラジル生まれ。1969年パラナ連邦大学森林科学科卒業。西ドイツ・アルバート・ルードヴィッヒ大学より修士学位(1974年森林計画学)およびPhD(1976年森林経済および森林管理学)を取得。1970年パラナ連邦大学助手、助教を経て、1980年同大学教授、1998年より同大学上級教授。1976年よりブラジル政府の各種審議会委員を務める。

2004年度農学国際センターのオープンセミナー開催記録(10月~3月まで)

回数	日時	テーマ	講師	所属	参加者数
第6回	2004年 10月26日	Agriculture for Peace Studies sponsored by United Nations University	ザカリア・マレー アニー・レワ アヤネ・ボゲール	タンザニア農業食料省研究官 ケニア畜産開発省上級獣医 エチオピアアレマヤ大学経済学科長	20名
第7回	11月25日	マレーシア国水田灌漑プロジェクト(世界銀行)でのシニア海外ボランティア(JICA)体験	山田雅弘	山田水利環境研究所(YWEI) 代表取締役	11名
第8回	2005年 1月19日	ナミビア大学農学部への研究協力—血液型を介しての遺伝学—	水谷 誠	財団法人 日本生物科学研究所 付属実験動物研究所 主任研究員	10名
第9回	2月17日	これまでの研究、国際協力活動と今後の抱負	浅沼修一	独立行政法人 国際農林水産業 研究センター沖縄支所 支所長(当時)	13名
第10回	2月21日	農業分野における大学と円借款の連携	松澤猛男	国際協力銀行(JBIC) 開発セクター部 次長(当時) 2004年度本センター客員教授	10名
第11回	3月3日	ブラジルの森林資源開発・保全問題に関する国際教育協力の可能性を求めて	ホソカワロベルト ツヨシ	ブラジルパラナ連邦大学 上級教授(森林工学) 2004年度本センター客員教授	23名
第12回	3月11日	日本の大学における農学教育カリキュラムの解析	田島淳史	筑波大学 農林技術センター	10名